心温まる物語

ニュージーランドの旅で感じたこと

今関 信子

開拓者が入植してまず建てた「よき羊飼いの教会」

「旅ですか。それならニュージーランドがいい。考えるヒントが与えられますよ。」助言してくれたのは、アイトワの森さんでした。森さんは、京都の嵯峨野で循環型の生活を実践しています。

私が、オークランド空港に降り立ったのは、十二月下旬でした。季節は夏。明るい太陽の下のクリスマスです。オークランド市内を歩いたとき、日本のクリスマス商戦のような喧噪がなく、クリスマスシーズンを感じさせるものといったら、教会の集会案内に見る参加呼びかけくらいでした。私のこの国に対する第一印象は、お金儲け第一主義ではないらしい、というものでした。

ニュージーランドは、ルピナスの咲く湖畔の風景や世界遺産になっている国立公園の自然の景観が、人々の旅心を誘って、日本の人にも人気のある観光地です。私も、ルピナスが見たい、氷河のある自然を、南十字星が輝く夜空を満喫したい、野生の動物も見たい、と欲張って、旅のプランを立てました。

野生の動物でよく目にしたのは、オポッサムでした。ネコくらいの大きさの有袋類です。自動車にひかれて、あちこちでぺしゃんこになっていました。「走ればぶつかるほど、たくさんいるんですよ」と、ガイドさんは言いました。ルピナスも、道ばたに野原に湖畔に、思わず声を上げるほど美しく、生き生きと咲き競っていました。これらは、外来種なのだそうです。

羊を飼育する牧場に、羊が食べないルピナスが増えて、困っているそうです。観光産業に携わる人々と酪農家達と、どう折り合っていくのでしょう。ニュージーランドなら、日本とは違った知恵を出して、乗り切るかも知れないと思いました。なにしろ、やっていることが、日本とずいぶん違う気がするのです。私は、琵琶湖のそばに住んでいますので、外来種のことが気になりました。

国立公園への移動中のことでした。とにかく遠回りするのです。何本もの道路をつくらないし、大きな橋を架けない。一台しか通れない橋では、行き違うために、待っていなければなりません。この国では、自然を守ることが優先されて、人間の利便性はあとまわしなのです。

そうそう、スーパーマーケットで買った果物。見てくれの悪い物が、どっさり来て驚きました。日本でよく見かけるニュージーランド産のみごとな果物。あれは、輸出用の上等品でした。ニュージーランドの人は、二級品を食べていました。それが、安くて、どっさり買えて、味にかわりがない。

自然と共生しつつ暮らす農業国ニュージーランドを感じ取ることができました。日本は、何を大切にする国なのでしょう。東日本大震災を経験して、私は、満開の桜の下で考えています。

ルピナスの咲きみだれる草原で

共に生きてこそ 今関信子

いまぜき のぶこ＝1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。
〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987童心社　青少年読書感想文コンクール課題図書、『さよならの日のねずみ花火』1995国土社　青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で」「寺子屋づくり」2003PHP研究所など多数